



おしごと体験で将来の自分を描く

「子どもたちが自分で創る未来」

キッズハローワークとは 「キッズデザイン賞」受賞

2015年からはじまった「おしごと体験広場キッズハローワーク」は、地域団体との協働で開催している子ども向けの職業体験とあそびのイベント。こどもの「やってみたい」をかきたて様々なことを経験できる場としてつくれた。代表である大西晶子さんは「弘前という場所だからこそ教育的な社会体験プログラムを体験してもらいたい。こどもの知らないを減らしたい」と語る。そして誰でもいつでも参加できる場所というモットーのもと、キッズハローワークは職業体験の他に「こどもの居場所」としての役割を持つ。高いところから行われがちなどこもりの貧困問題に対し、こどもと同じ目線で親しくなり相談に乗る。フラットな関係性でコミュニケーションをとることで、こども、そして保護者も相談しやすくなる。そんな場所を目指している。

過去には様々なテーマのもと職業体験イベントを開催しており、参加した小学生は何を体験しても楽しいと感想を語る。実際のプロの仕事を見て感動する姿も。新型コロナウイルス蔓延後は、一度に様々な職業ブースを設置していた。蔓延後は、りんご篇・空港篇・ものづくり篇などの職種ごとに企画し、感染対策を徹底しながらイベントを実施している。

ハロー制度



参加者はおしごと体験を始める前に、「おしごと手帳」を購入する必要があり、この手帳1冊につき、3つのおしごとを体験することができる。また、おしごと体験してもらったスタンプを「ハロー」に換金することで、ジュースとの交換やネイルなど、働いて得た報酬と相談しながらやりたいことを自由に選んで遊ぶことができる。

キッズハローワークは2019年「第13回キッズデザイン賞」(※キッズデザイン賞・NPO法人のキッズデザイン協議会が主催)を受賞。この賞ではこどもたちは「おしごとの木」を作成した。「おしごとの木」とは、こどもの身近な人の仕事についてそれぞれ書いてもらい、紙で作られた木にはるといふもの。この原案は弘前大学の学生によって考案されたものであり、仕事がつながっていく様子を木に例えて作られた。大西さんは「こどもにとっても、身近な人の働いている様子を見ることはすぐいいことだと思う」と話す。また、今後の活動について大西さんは「イベントを通してこどもたちの自己肯定感を育てていきたい」、「自分がやらなくても、活動にかかわった人たちが同じような活動をしてくればいいと思う」、「などこどもたちの成長できる環境についても考えている」。



青森県弘前市は日本一のりんごの町。そのためりんごに関わる農作業体験はもちろん、日本航空との共同イベントなども行われた。



主催
おしごと体験
広場キッズハ
ローワーク実
行委員会

編集後記

親が「あれやりにさい」「それどもの「やってみたい」と言っていて、これを否定してはいけません。知ることが主体性を持つて育つていける環境が必要だと思っていました。取材に協力していただきました。大西様、ありがとうございました。

おしごと体験広場キッズハローワーク 実行委員会代表 大西晶子さん

大西さんは「青森県は都会に比べて、栄えてないからこそ自分で何かを作る楽しさがある。こういった場所でクリエイティブな人が育っていく」と語る。

大西さんは特例認定NPO法人SEEDS NETWORKの理事長を務めており、その活動の一つがキッズハローワーク。その他、農家の採れたて野菜が購入できる「べじまーけっと」や学生のスキルアップの場としてBeeComeなどの活動も行っている。

